狩猟・農業で地域をおこす！

加藤 由樹 さん　加藤 ジャクリーン さん　髙橋 留奈 さん

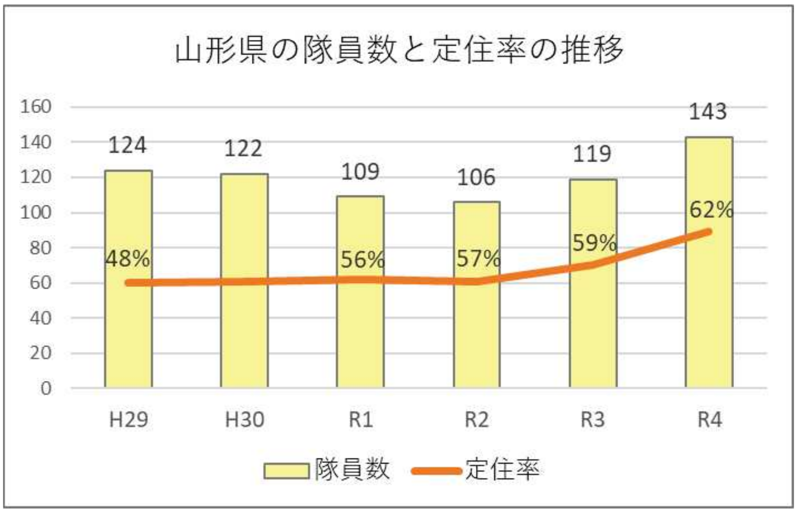
地域おこし協力隊の現状

「地域おこし協力隊」とは、平成21年度に総務省が創設した制度で、人口減少に悩む農山漁村が意欲ある都市住民を受け入れることで地方活性化を目指すものだ。令和４年度の全国の隊員数は６４４７名で、そのうち山形県の隊員数は１４３名となっている。定住率は62％で、協力隊の半数以上が任期終了後も活動地の市町村に定住している。

協力隊の募集や決定は市町村がそれぞれ行っており、市町村が直接雇用するほか、農業法人、観光協会、ＮＰＯ法人等の職員として採用する場合もある。総務省が地域おこし協力隊に行ったアンケートによると、「協力隊として最も多くの時間を割いている活動」では、「農畜産業、林業、漁業への従事」の割合が最多を占めた。

農業従事者の高齢化が進むなか、地域の農業や代々受け継がれてきた農地を守るため、協力隊として意欲ある人材を受け入れたいと考える農家が増えてきている。

今回は地域おこし協力隊になる選択をし、狩猟・農業を次世代に繋ぐバトンを受け取った、南陽市で活動する３人に話を伺った。



総務省 令和４年度地域おこし協力隊の隊員数等について（R5.4.4）参考

出身：山形県中山町　活動テーマ：鳥獣害対策

地域おこし協力隊になる前は、山形市内の飲食店で働いていた髙橋さん。以前から狩猟と地域おこし協力隊に興味があったことと、働いていた店の閉店が重なり、鳥獣害対策に関する人材の確保を目的とした南陽市の地域おこし協力隊に応募した。

週末は「どんどん焼きカフェカシワヤ」としてキッチンカーで県内各地のイベントに出店している。

狩猟

Takahashi Runa

髙橋　留奈　さん

R5.8.8　罠の見回りに同行
前回はくくり罠にかかるも逃げてしまった

R5.9.8　遂にイノシシを捕獲！

協力隊としての活動は？

罠などの毎日の見回りや有害鳥獣駆除、研修会への参加、地域の情報発信などを行っています。狩猟免許と銃砲所持許可は協力隊になってから取得しました。有害鳥駆除期間の早朝には、猟友会の方とぶどう棚周辺の見回りをしています。

また、今年で協力隊3年目となり定住に向けた準備をしています。今後は活動拠点の小滝地区でイベントを開催し、狩猟に興味のある人が交流できる場をつくっていきたいです。

猟友会の状況は？

所属する猟友会の支部は人員不足により活動を中止していましたが、昨年12年ぶりに活動を再開しました。現在は8名の会員で活動しています。

狩猟人材は微増傾向にありますが、罠の免許のみ取得する人が多く、とどめは銃で行うため銃の免許を取得している人が必要です。

他県には猟友会の青年部がありますが、山形県にはないので若いハンターが集まれる機会がほしいと思っています。

鳥獣対策として個人で取り組めることは？

残飯を外に置かないことや、屋外で生ごみを入れているコンポストをしっかりと柵で覆うといった対策ですね。囲いがされていない家庭菜園が、野生動物への餌付けになってしまっていることがあります。

対策をしないと、野生鳥獣に「餌場（えさば）」だと思われてしまうので、市町村の補助を活用して電気柵を設置するなど、各自がやりやすい方法で対策してほしいと思います。

果樹

Kato Yuki & Jacqueline
加藤　由樹　さん
ジャクリーン　さん

出身：由樹さん　神奈川県　/　ジャクリーンさん　沖縄県
活動テーマ：農業（果樹）

加藤さん夫妻は横浜市で働きながら田舎での生活に憧れを持っていた。山形に住む孫に会いに来た際に、南陽市の鳥上坂（とりあげざか）から見るぶどう棚がキラキラと光る景色に感銘を受けた。果樹を栽培してみたいという気持ちが強くなり、定住・就農を目指して地域おこし協力隊に応募。南陽市を選んだ理由は、山形のシャインマスカット第一人者のもとで栽培指導を受けられること。令和５年３月で協力隊の任期が終了し、南陽市に定住した。

協力隊を終えた現在の状況は？

「農家」になったというよりは、「果樹農業を営んでいる」というスタイルです。現在は借り受けた園地でデラウェアとシャインマスカットを30ａずつ栽培しています。販路は主にクチコミで、目標はお客さんが求める大粒で美味しいぶどうを作ることです。まずは先を見据えた経営プランを立て、収入を安定させていきたいと考えています。私たち作り手の想いを知ったうえで長くお付き合いしてくれるお客さんと信頼関係を築きながら、喜んでもらえるものを楽しく作りたいです。横浜の友人は、「とても美味しい」と繰り返し注文してくれています。

移住してよかったことは？

由：前職では建設業をしていたので身体を使えるし、何より２人の時間が増えました。自営業だったため私は常に現場へ出ており、妻には経理を任せっきりで２人の時間がほとんどありませんでした。移住してからは、互いに役割を補い合うことで、初めて２人の時間を持てています。

ジ：いつも地域の人が私たちのことを気にかけてくれる、あたたかい環境ですね。出かけている間に野菜が玄関に置かれていることがよくあります。あとは、何を植えてもいい庭があることですね。アスパラ、ミョウガ、栗、イチジク、山菜などを育てて、採れたてを楽しんでいます。

９月中旬　シャインマスカットの収穫

3人に聞く

南陽・山形のいいところ

南陽市のイメージやその変化は？

髙橋さん　もともと山形県内の出身なので、南陽市といえばラーメン、白竜湖のイメージでしたね。居住している小滝地区の人が本当に優しくて、春はワラビ、夏は野菜、秋はきのこのお裾分けをくれたり、冬は除雪を手伝ってくれたり、何でも助けてくれます。

ジャクリーンさん　南陽市は移住した当初から好きでしたが、ますます好きになっています。大変なこともありましたが、移住して本当によかったです。定住してからは農家さんとの距離もずっと縮まって、移住者という垣根がなくなったように感じます。

由樹さん　最初のイメージは、やっぱり鳥上坂から見たぶどう棚の景色ですね。四季の風情を感じられる南陽市の景色は本当に良くて、来て良かったと思います。任期を終え「協力隊」の肩書きがなくなったいま、新しい土俵に立ったと一番燃えているので、心とお金にゆとりを持って頑張りたいです！(笑)

ここにしかない、大切にすべき地域資源は何だと思いますか？

由樹さん　採れたてで鮮度の良い農産物を日常的に食べることができるのは、ここに暮らす人の特権だと思います。山形県のシャインマスカットは本当に美味しいので、もっとアピールしていければ観光・農産物の売り上げにつながっていくはずです。知らなければ求められないので、知るきっかけを作ることが必要だと感じます。移住してからは何を食べても美味しく、野菜や果物の本来の味が強いので、素材を味わって食べるようになりました。みんなが山形県の農産物が美味しいことを自覚して、自慢して、自信をもって周りに広めていけたらと思います。

ジャクリーンさん　なんといっても景色です。自宅のキッチンから見える、季節ごとに表情を変える田んぼの風景と、小鳥のさえずりは宝物です。こちらでは食べ物が美味しいのは当たり前だけど、関東に住む友人へ食べ物を送ると「美味しい、もっと欲しい」と言われます。山形の土地・環境が恵まれているのだと思います。

髙橋さん　県外から来た人はみんな「山形の食べ物は美味しい」と言っています。それに、水道水が飲めるほど、水が美味しいことにも驚かれます。山々が近く、家の裏でワラビ、ウド、ミョウガ、ギンボなどの山菜が採れるのもいい環境だと思います。